

別紙３ 開札と落札者等の決定方法について

１． 開札と落札者について

１． 開札と落札者等の決定

- １）開札はあらかじめ指定した日時及び場所において、入札参加者の中から２者以上の立会人を立ち会わせて執行するものとします。ただし、入札参加者が立ち会わない場合は当該入札事務に関係のない職員を立ち会わせて、開札を行います。
- ２）入札を行った者のうち、予定価格と最低制限価格の範囲内で、最も低い額の入札者を落札者として決定します。

２． くじ用数値による落札（候補）者等の決定方法

- １）最低入札額が２者以上の場合は、まず、その同額者があらかじめ条件付一般競争入札参加申請書兼誓約書（様式２）に記入した０００～９９９までのくじ用数値の合計に、入札立会人が開札時に決める０００～９９９までの乱数を加算し、その合計値を同額入札者の数で除し、余りの値を算出します。
- ２）同額入札者の数から余り値を引いた数値とくじ順の数値が同一の者を落札（候補）者とします。
- ３）くじ用数値が不明確又は未記入の場合は、**９９９**として加算します。

（計算例）

入札参加者名	金額	くじ用数値	乱数	くじ値	くじ順
A	3, 140, 000	900	300	200	2
B	3, 140, 000	003		303	3
C	3, 140, 000	132		432	4
D	3, 140, 000	700		000	1
E	3, 140, 000	223		523	5

※くじ値…それぞれのくじ用数値に乱数を加算した数値であり、加算した合計値が１０００以上になった場合は下３桁を採用する。

※乱 数…入札参加者の中から事前に指名された立会人が入札当日に決定する数値であり、０～９の抽選棒を使い、百の位、十の位、一の位を順に決定する。

※くじ順…くじ値の少ない順に決定する。なお、くじ値が同数の場合は入札参加者名の５０音順にくじ順を決定する。

① くじ用数値と乱数を加算し、その合計値をくじ対象者の数で割り、余りを求めます。

$$(900 + 3 + 132 + 700 + 223 + 300) \div 5 = 451 \cdots 3$$

② 同額入札者の数から①で求めた余りを引きます。

$$5 - 3 = 2 \rightarrow \text{くじ順} 2 \text{ の A が落札（候補）者となります。}$$